


第1回佐賀県公共事業評価監視委員会 における指摘事項について

- **各新規事業の概要について**
【まちづくり推進課他4課】
- **各年度における維持管理費の推移について**
【企画・経営グループ】
- **透過型の砂防堰堤について**
【河川砂防課】
- **地域水田農業支援緊急整備事業の効果について**
【農地整備課】



各新規事業の概要について
【まちづくり推進課他4課】

街路整備事業

県土づくり本部 まちづくり推進課

街路整備事業とは...

事業の目的

- 街路整備事業は、計画的なまちづくりを行うために定められた都市計画道路の内、主として市街地とこれに隣接する地域において行うもので、活力ある都市づくり、安全で安心できる市街地の形成を目的としている。
- 街路の機能としては、
 - ①交通処理や沿道利用としての機能
 - ②通風や採光、緑化、オープンスペース等住環境を形成する機能
 - ③避難路や緊急輸送道路、災害遮断等の都市防災機能
 - ④電気、電話、上下水道、ガス等の公共施設の収容機能
 - ⑤街区の形成等市街化の誘導機能 等、様々な機能がある。
- 事業の内容としては、既存の道路を拡幅や駐車帯の確保、幅の広い歩道整備、植樹や照明灯の設置、無電柱化等を行っている。

街路整備(道路拡幅)イメージ図



整備前



整備後

イメージ図出展:愛知県都市整備課HP

街路整備事業実施例(唐津市)

整備前



整備後



整備内容

- ・右折レーンや駐車帯の確保
- ・インターロッキングによる幅広歩道
- ・街路樹や街路灯の整備
- ・無電柱化
- ・点字ブロック等UDへの対応

クリーク防災機能保全対策事業

県土づくり本部 農山漁村課

クリーク防災機能保全対策事業とは...

事業の目的

- 佐賀平野のクリークは、農業用水の貯留や送水機能のほか、洪水時には降雨を一時的に貯留し、地域を洪水から守る防災機能などの多面的機能を有している。
- クリークの多くは土水路のままであることから、クリーク法面の崩壊が進行し、貯水・送水機能の低下、湛水被害の増加、周辺道路の通行や営農が危険な状況である。
- このことから、安定した農業生産が可能となるよう護岸整備を行い、クリークに隣接する道路、農地を保全し、地域住民、農家の安心・安全の確保を図ると共にクリークの洪水調節機能の保全・強化を図る。

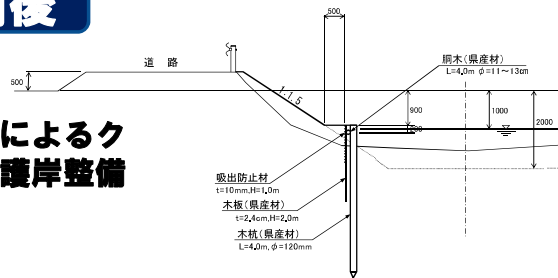
現状

・クリーク法面が浸食され、道路通行や営農に支障をきたしている。



整備後

・木柵工によるクリークの護岸整備



整備の目的・方針

- クリークの護岸整備を実施し、クリークの持つ洪水調整機能の保全・強化を図り、湛水被害の軽減、安定した農業経営の実現を図る。
- 護岸の整備は、県産間伐材による木柵工とし、森林の保全や林業の活性化にも寄与するものとする。

経営体育成基盤整備事業

県土づくり本部 農地整備課

経営体育成基盤整備事業とは...

事業の目的

- 農地の大区画化、農道の整備、用水路・排水路の整備などを総合的に実施することにより、大型機械の導入が可能となり、農業生産性の向上が図られるとともに、排水条件を整備することにより、麦・大豆・野菜などの作付が可能となる。
- また、農地を集積し、担い手の育成を図ることで、農業経営の安定が図られる。

(主な事業内容)

- ①区画整理
- ②農業用水路整備
- ③農道整備

農地整備の方法例(区画整理)

区画整理

狭くて不整形な農地を広くて使いやすい形に整形し、併せて農道や水路の整備を行う。

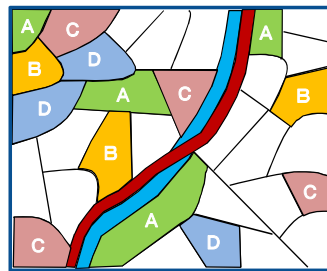


整備前

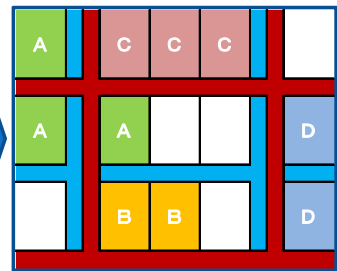


整備後

- ・分散している農地を集積することにより、効率的な農作業ができる。
- ・担い手への農地の集積が容易になる。



整備前



整備後

農地整備の方法例(区画整理以外)

農業用水路整備

水路法面を浸食などから守るため、土水路をコンクリート水路に整備する。



整備前



整備後

農道整備

イチゴなどを輸送する際に生じる傷を防ぐため、凸凹が生じやすい砂利道をアスファルト舗装に変える。



整備前



整備後

治山事業

県土づくり本部 森林整備課

治山事業とは...

事業の目的

- 治山事業は、森林の維持造成を通じて山地に起因する災害から住民の生命・財産を守り、水源かん養、生活環境の保全・形成等を図る、極めて重要な国土保全政策の一つであり、安全で安心できる豊かなくらしの実現を図る。

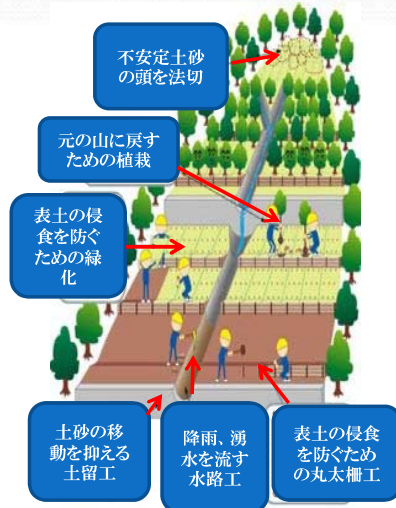
事業の内容

- 山腹崩壊地、浸食されたり異常な堆積をしている溪流などの荒廃地を復旧整備し、災害の防止、軽減を図る。(山地治山事業)

山地治山事業の主な工法

山腹工

崩壊した山腹斜面の安定を図るため、施設（土留工や水路工等）の設置や樹木を植栽し、森林を再生。



溪間工

荒廃した溪流の安定を図るため、施設（治山ダムや流路工等）の設置や樹木を植栽し、森林を再生。



地すべり防止事業

県土づくり本部 森林整備課

地すべり防止事業とは

【目的】

○森林の維持造成を通じて山腹崩壊等の山地災害から住民の生命、財産を守るとともに、水源涵養等の森林の持つ公益的機能を発揮させるために事業を実施している。

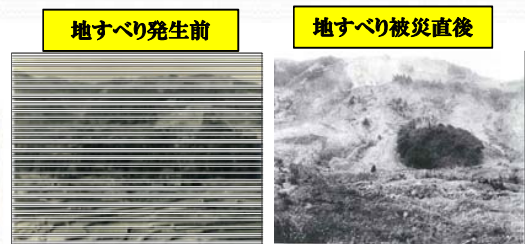
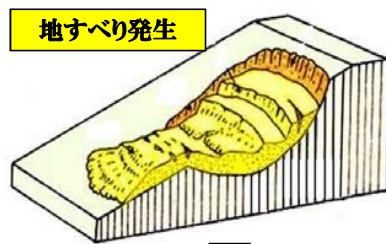
【事業内容】

○地すべりによる被害を防止するため、地すべり防止区域内において地すべりを誘発する地下水の排除等を行う対策工事を実施する事業。

地すべり防止事業の主な工法

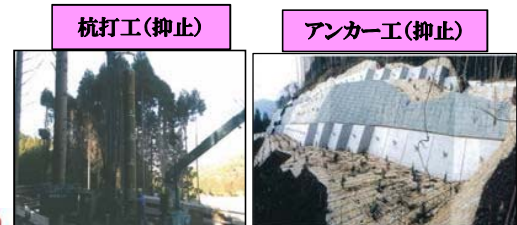
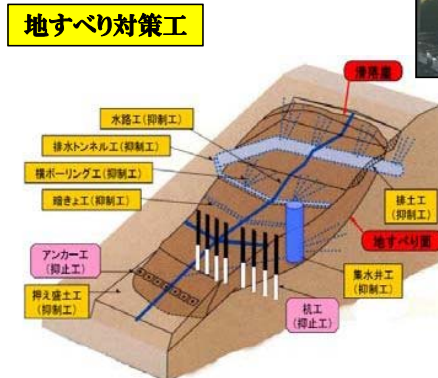
抑制工

地下水を排除する地下水排除工や地すべりの頭部を軽くする排土工などがある。



抑止工

杭やアンカーなどの抵抗力によって地すべりの移動を止める杭打工やアンカー工などがある。



道路事業

交通政策部 道路課

道路事業とは

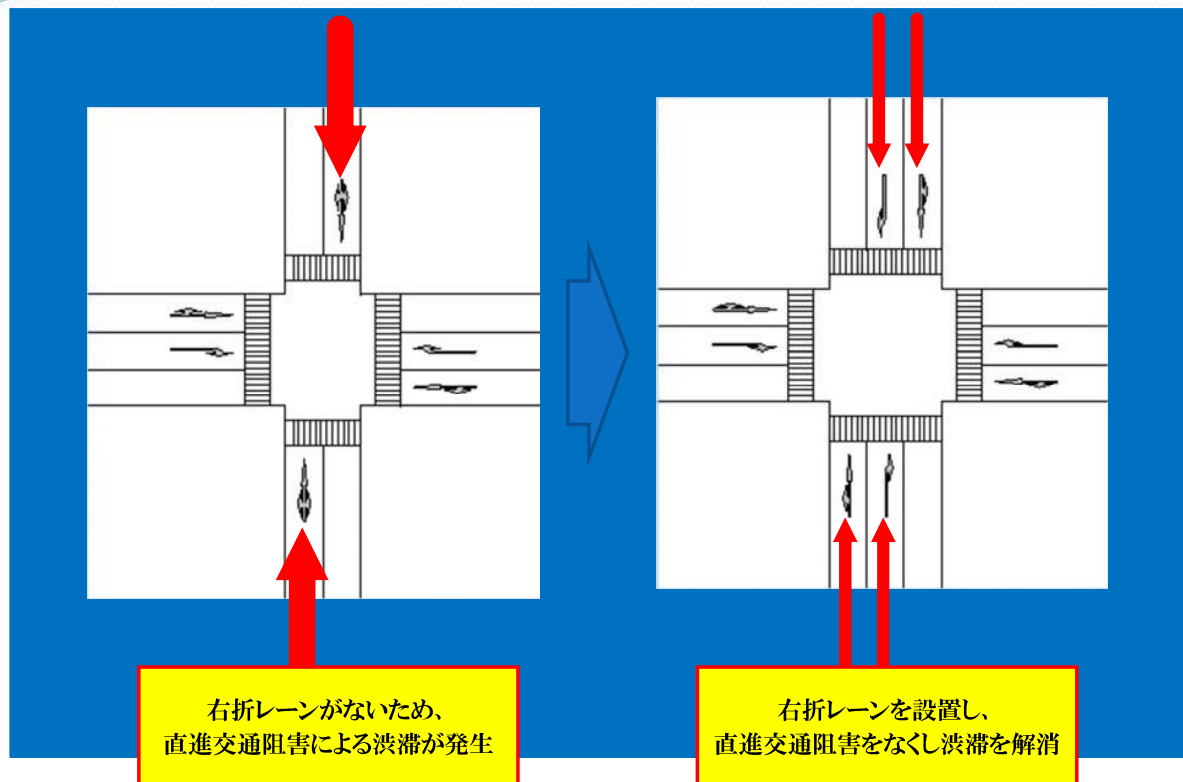
【目的】

- 道路事業は、道路の持つ交通機能と空間機能を果たすため、道路の種別に応じて、計画的に事業を推進している。
- 佐賀県の道づくりの基本方針としては、「安全で安心な道づくり」、「交流を支える道づくり」、「活力ある地域を育む道づくり」の3つの基本方針に基づいて整備を行っている。

整備系の道路事業のバイパスと現道拡幅について



整備系の道路事業の交差点改良について



整備系の道路事業の歩道整備について

○整備前



・交通量が多いが、歩道が設置されていないため、危険な状況

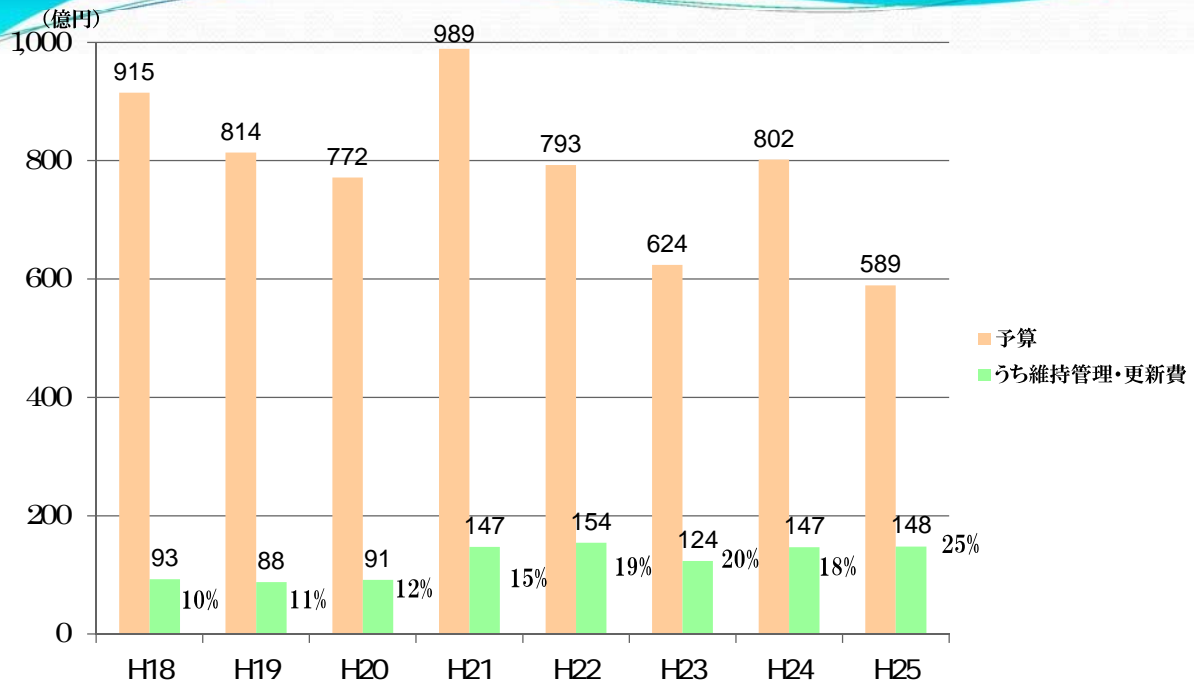
○整備後



・用地買収を行い歩道を設置

各年度における維持管理費の 推移について 【企画・経営グループ】

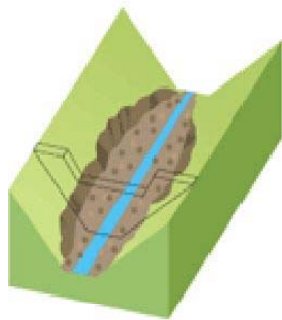
各年度の予算と維持管理・更新費の推移(H18年度～H25年度)



- ※ 各年度の予算：県土づくり本部の投資的経費（支弁人件費、直轄災害負担金を除く）
- ※ H18年度～H24年度までの予算は2月補正後の予算（経済対策等含む）
- ※ H25年度は9月補正後の現計予算

透過型の砂防堰堤について 【河川砂防課】

砂防堰堤の役割



①

砂防堰堤がないと、大量の土砂が一気に下流まで流れ出ます。



②

砂防堰堤を造ると、上流から流れてくる土砂がたまり、川の勾配がゆるくなって兩岸の山の斜面の崩壊を防ぐことができます。



③

大雨などにより土砂が流れてきた場合、砂防堰堤はさらに多くの土砂を一時的に貯めます。



④

一時的に砂防堰堤に貯められた土砂は、その後の川の流れによって徐々に下流へ流し出され、②の状態に戻ります。貯まった土砂を人為的に取り除くこともあります。

砂防堰堤の効果事例

土石流発生前



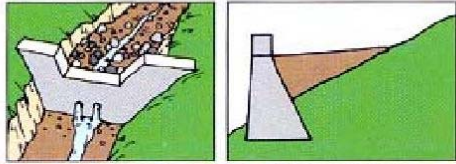
土石流発生後



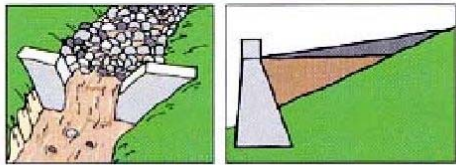
- ・ 豪雨により発生した土石流を砂防堰堤が捕捉
- ・ 下流に位置する家屋等の施設や人命を保全

砂防堰堤の種類

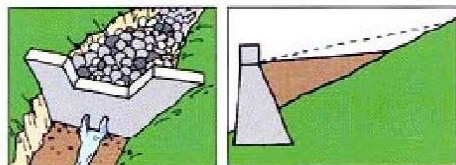
不透過型砂防堰堤



土石流発生前 / 流れてくる土砂をためます。

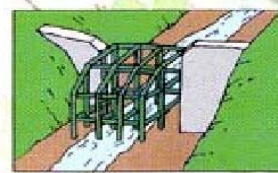


土石流発生時 / ためた土砂の上にさらに土砂がたまります。

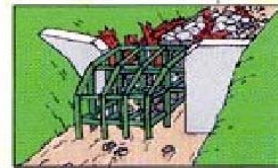


土石流発生後 / 中小洪水で土砂を少しずつ下流に流します。

透過型砂防堰堤



土石流発生前 / 流れてくる土砂を下流に流します。



土石流発生時 / 流水や土石を止めます。



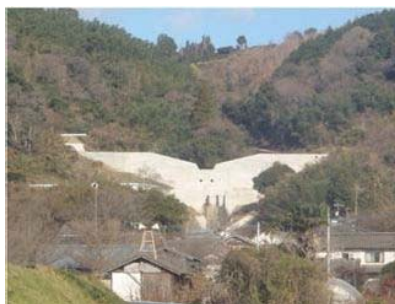
土石流発生後 / 除石等により機能を回復します。

県内の砂防堰堤の現状

- 透過型砂防堰堤とは、平常時は土砂等を流すが、土石流時には巨礫によって透過部断面が閉塞することにより、土石流を捕捉する堰堤である。

不透過型えん堤

多久市東多久町納所



ダム直下に保全家屋がある場合などを除き透過型えん堤を採用

透過型えん堤

唐津市相知町田頭



小動物等の移動が容易

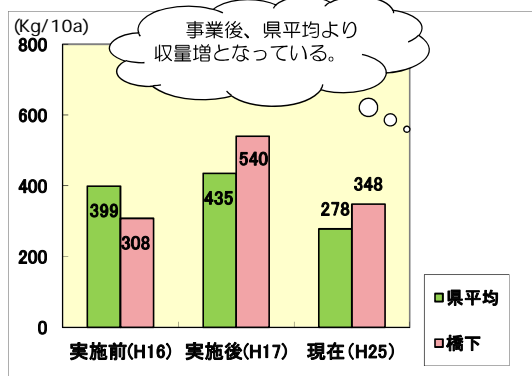
地域水田農業支援緊急整備事業 の効果について 【農地整備課】

○事業効果(1)

【前回説明資料】

◆◇乾田化による畑作物の収量増◇◆

▽小麦



H19以降は、小麦品種を変更(めん用→パン用)して作付けされている。(H24はパン用小麦データ)

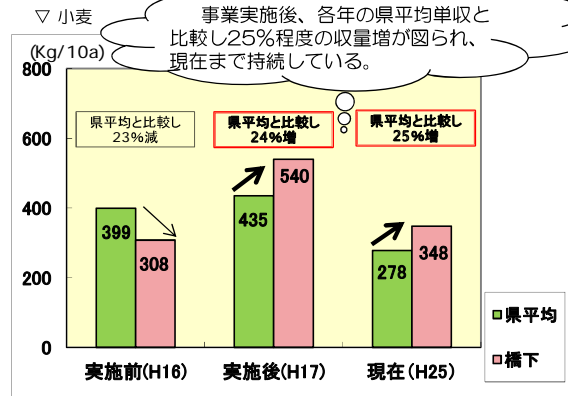
▽生育が良好な小麦



○事業効果(1)

【修正後】

◆◇乾田化による畑作物の収量増◇◆



・暗渠排水整備後(H17)、県平均単収と比較し24%の増となっており、効果が発生している。
・H19年以降、橋下地区ではめん用小麦から単価が高いソバン用小麦に品種が変更されたが、現在(H25)ソバン用小麦の県平均単収と比較し25%の増となっており、効果が持続している。

